三鷹市立高山小学校　令和8年度【　　音楽　　】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○歌唱については、継続して歌詞を覚えながら、歌う楽しさを味わわせることができた。学園歌は歌詞が類似していて覚えるのが難しかった。 ○鍵盤ハーモニカの演奏については、日々の授業の中で運指が身に付くように指導したことで、正しい演奏ができるようになってきた。 ○タンブリン、鈴、木琴など、打楽器に触れ演奏した。リズムよく演奏できない児童には、個別に指導をした。 ○リズムに乗って音楽活動を行うことができるように、身体運動によるリズム学習の時間を取り入れ、能力差に応じて個別指導を行った。	○学園歌、校歌に４月から取り組んでいる。覚えた箇所は元気に歌うが歌詞を曖昧に覚えているため、歌声が小さくなる。 ○鍵盤ハーモニカについては、６月には学習に取り入れて毎時間使い方やタンギングについて指導を行っている。 ○運指についても指導しているが、ドの位置を見付けるのに苦労している児童がまだいる。また指がしなやかに動かない児童もいる。タンギングについても引き続き指導が必要である。 ○楽譜の見方が分からず、どこを自分が弾いているのか歌っているのかが分からない児童がいる。また、周りと音がずれていても気付けない児童もいる。 ○体を使ったリズム遊びなどを毎回の授業で取り入れていることから、リズムに親しみをもち、楽しんで活動している。 ○鑑賞では、曲想から感じ取ったことを発言できるが、語彙が少ないため、言語化することがうまくできない児童が多い。	○歌詞の意味を伝えたり、視覚的なヒントを与えたりしながら、イメージをもって歌う習慣を付ける。元気でのびやかな歌声にレベルアップできるようにＣＤなどを活用し、姿勢や口の開け方、表情を意識しながらお腹から声を出させる。 ○鍵盤ハーモニカについては、同じ曲を繰り返し練習させて自信を付け、指くぐりなどの技法に取り組めるようにする。運指を確実に覚えるよう繰り返し指導し、それでも覚えられない児童には印を付けるなどの工夫をする。 ○体を使ったリズム遊びには継続的に取り組み、音を出したり、止めたりすることへの集中力を高める。また、ペア活動等も取り入れ他者と協働して音楽表現をすることの楽しさを味わわせる。 ○音の感覚を表現する言葉を掲示することで言葉を増やす。いろいろな音や曲に親しみ、楽器それぞれの音の特徴などを意識的に言語化することで、曲を聴いた時に使用されている楽器や、曲調への感想を導き出せるようにする。
第2学年	○音符の学習と関連付けて、様々な楽器でリズム作りをすることができた。 ○学期ごとにリズム作りや合奏に取り組み、パートごとの音の重なりや全体でのタイミングを合わせるなどの経験を積ませることができた。合奏は小グループで取り組むことにより、音やタイミングを合わせることへの意識付けができた。 ○鍵盤練習帳等で運指の基礎練習・タンギング練習などを取り入れ、簡単な曲を演奏することができるようにした。授業中に練習を積み重ねたことで、演奏する達成感を感じることにもつながった。 ○鑑賞に使える言葉を音楽室に掲示することでヒントになった。	○音楽会を意識して、鍵盤ハーモニカの練習を夏季休暇にも取り組ませた。 ○リズムづくりには積極的に取り組む児童が多い。 ○合奏は回を重ねるごとに友達と息を合わせて演奏することができるようになっている。 ○鍵盤ハーモニカのタンギングが苦手な児童が多い。また、クラス、児童により運指の技能にばらつきが見られる。	○音符の学習と関連付けて、様々な楽器でリズム作りの経験をさせる。 ○パートごとの音の重なりや、全体でのタイミングを合わせるなどの経験を積ませる。合奏はクラス全体から学年全体へと少しずつ人数を増やすことにより、音楽会につなげていく。 ○毎時間運指の基礎練習・タンギング練習などを取り入れ、簡単な曲を演奏することができるようにする。鍵盤の位置が分からない児童にはシールを使用して視覚的支援も行う。 ○いろいろな音や曲に親しみ、楽器それぞれの音の特徴などを意識的に言語化することで、曲を聴いた時に使用されている楽器や、曲調への感想が導き出せるようにする。
第3学年	○児童が曲や楽器、演奏に対して思いや考えをもつことができるよう、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、歌詞の意味や情景などを意識させて歌うことができた。 ○毎時間歌唱活動を取り入れ、口の大きさや姿勢などを身に付けることができた。 ○リコーダーの基本的なタンギングが定着できるよう、長期休み期間も活用し、段階的な練習方法を取り入れたことで自信をもって吹くことができた。	○音楽の学習や活動に対しては、積極的に取り組むことができる児童が多い。 ○しっかりと声を出して歌うためにも、口を大きく開けて歌うことが課題の児童が多い。 ○合奏では、初めのころと比べて相手のことを意識した演奏ができるようになってきている。 ○リコーダーは、ソ・ラ・シの３音を学習したが、タンギングの定着が今後の課題である。 ○リコーダーの指遣いとしては、指の腹で穴をしっかりとふさいで演奏することが課題である。	○毎時間リコーダーでは運指の練習・タンギング練習などを取り入れ、曲を演奏することができるようにする。また、毎時間歌唱活動を取り入れ、口の大きさや姿勢などを身に付けることができるように指導する。 ○関心をもって、児童が曲や楽器、演奏に対して思いや考えをもつことができるようにする。 ○リコーダー・鍵盤ハーモニカについては、音楽の授業時間だけでなく長期休みの宿題などとしても繰り返し練習させ、授業や音楽会で自信をもって吹けるようにする。 ○リコーダーでは、なぜ正しく音が鳴らないのかが分かるように、丁寧に指導をする。 ○歌詞の意味や情景などを意識させて歌うように指導する。
第4学年	○曲の特徴から、歌い方の工夫につなげることができた。 ○鑑賞や歌唱を通して、かけ合いや重なりに注目して曲を捉えたことから、合唱への期待をもたせることができた。 ○リコーダーは繰り返し練習する時間を確保し、十分に反復練習することで、きれいな音色で演奏することに意識を向けさせることができた。 ○パートの役割を意識しながら演奏することで、合奏の楽しさや面白さを感じることができた。	○曲のリズムにのり、楽しそうに歌っている。大きく口を開けて、しっかりと声を出して歌っている児童が多い。曲の雰囲気を感じ取り、表現している。 ○リコーダーの息遣いやタンギングなど、正しい奏法を身に付けている児童が多い。 ○曲への取りかかりや取り組み方が意欲的であり、気付きや感想を言葉で伝えることがよくできる。	○曲の特徴を捉え、曲に合った歌い方を考えながら表現できるようにしていく。高い音程の歌声に意識を向けさせていく。 ○かけ合いや重なりに注目し、パートを重ねて歌う楽しさに気付き、合唱の導入につなげていく。 ○リコーダーのサミング奏法は繰り返し練習することで定着を図り、演奏できる曲を広げていけるようにする。 ○全体や少人数で音を合わせたり聴き合ったりする活動から、楽器の音が合わさった音色の面白さを感じさせるようにしていく。 ○ペアやグループの活動を通して、考えを共有したり、良さを伝え合ったりして、言語活動と結び付ける学習展開をしていく。 ○姿勢や口の開け方、発音などに気を付けて歌い、表現できるように意識を向けさせていく。
第5学年	○口の開け方や声のひびかせ方などをより具体的に取り上げて発声や発音に留意させることで、歌声のボリュームアップを意識付けることができた。 ○リコーダーや鍵盤ハーモニカ、アコーディオンなど、楽器を選んで合わせることで、違う楽器の音色が合わさった面白さを感じることができた。 ○リコーダーでは、音をぴったりと合わせて吹くことを意識させることで、その曲に合った表現に近づけることができた。 ○振り返りのワークシートは形式を統一し、何について書くのかを明確にすることで、学びの連続を目指したが、活用方法にまだ工夫が必要と感じた。	○表情よく、しっかりとした歌声で歌える児童が多くいる一方、発声が十分でなかったり音程をとることが難しかったりすることで、全体の表現が弱くなることがある。 ○リコーダーにも鍵盤ハーモニカにも意欲的に取り組み、みんなで音を合わせる楽しさを感じている児童が多くいる。アコーディオン導入におけるペアでの活動にも意欲的に取り組み、高学年への合奏への期待がふくらんでいる。 ○和音や低音の学習を通して、曲の仕組みやパートの役割を理解することができたが、楽器を選び、音の重なりを感じながら演奏する技能を身に付ける学習は不十分だった。	○歌いたいパートを自分で選択し、同じパート内で歌声を合わせるように歌うことを意識させることで、より自信をもって歌声を出せるようにしていく。 ○リコーダーや鍵盤ハーモニカに加え、鍵盤打楽器やアコーディオンなども使用し、パートの役割を理解しながら音を合わせる学習を通して、器楽合奏の面白さを味わわせるようにする。音のバランスに耳を傾け、強弱の工夫をそろえることで、合奏の美しさと楽しさを感じさせるようにしていく。 ○リコーダーの正しい奏法に留意しながら、音色に着目し、息遣いを工夫して曲に合った表現に結び付けられるようにしていく。 ○題材を通して学んだことが、次の学習にどう関連付いたり、生かされたりしているかなどの気付きや振り返りをワークシートに丁寧に記入できるようにしていく。
第6学年	○少人数で互いの歌声を聴き合いながら歌うことで、バランスを意識しながら歌声を合わせる意識が高まった。 ○歌詞や、旋律の動きに着目して強弱の工夫することで、より良い表現に近づくことができた。 ○リコーダーでは、ブレスのタイミングをそろえて、息遣いをそろえることで、音を合わせることに意識をもたせることができた。 ○振り返りのワークシートは、書く内容について例を提示しながら丁寧におさえることで、題材を通しての学びを意識するができた。	○教室で歌う時間を確保し、よく歌っているので、歌うことへの抵抗が少なく、素直な歌声で表現することができている。パートに分かれての合唱も、音の重なりを生かしてきれいなハーモニーを意識してつくろうとしている。歌詞の意味や旋律の動きから、強弱などのさらなる表現の工夫に結び付けていくことがこれからの課題である。 ○短調と長調の響きに着目して曲の感じをとらえる学習には、意欲的に取り組むことができたが、学んだ知識を表現に生かしていけるようにすることが課題である。 ○リコーダー演奏は、息遣いも指遣いも安定してきて、かなり複雑な指遣いにも積極的に取り組もうとしている。大勢で重なったリコーダーの音色の美しさを感じてほしいと、音楽会に向けての曲で練習に取り組んでいる。	○歌声を聴き合いながら、合わせるように歌う練習をしていくようにする。 ○歌詞の意味や発音に留意し、旋律の動きを生かした表現ができるように指導していく。 ○曲の感じを捉えて、表現の仕方を工夫させることで、曲への理解を深め、音楽表現の幅を広げるようにする。 ○学年で一つの演奏に取り組み、息や音を合わせることを通して、一体感や達成感が感じられるようにしていく。 ○題材を通して学んだことが、次の学習にどう関連付いたり、生かされたりしているかなどの気付きや振り返りをワークシートに丁寧に記入できるようにしていく。